

自民国交部会

「骨太方針」議論熱帯びず

概算要求基準は関心外

政府の経済財政方針「骨太方針」と概算要求基準（シーリング）の決定が目前に迫る中で、自民党での適正な公共投資規模を確保するための議論に熱が帯びてこない。3日に自民党本部で開かれた国土交通部会では、国土交通省が骨太方針で公共投資の削減方針が続いていることを説明し、出席議員に議論を促したものの、実際の発言は2009年度補正予算の執行という目先の議論に終始した。今月下旬にも決まる「骨太方針09」で公共投資削減が継続され、シーリングに反映されれば、本来の公共事業費は下がり続けたままになりかねない。

骨太の方針は、毎年度、経済財政諮問会議の議論を経て、閣議決定しており、今年度も今月下旬に閣議決定する見通しで、3日の経済財政諮問会議で本格的な議論が始まった。

公共事業関係費については、骨太の方針2006以降、同07と同08でも公共工事削減方針が維持されてきた。それに沿って、シーリングでも公共事業関係費の削減が決まり、09年度当初では、実質5%減となった。

3日の自民党国交部会で国交省の増田優一官房長は「これまで骨太の方針06にもとづ

いて決まってきたものの、基礎的財政収支（プライマリーバランス）の目標は絶望的となったため、新しい目標が経済財政諮問会議で議論されるだろう」とこれまでの状況が変化していることを説明。「今はまだ社会資本整備についての議論は見えていない。骨太の方針09で公共投資がどうなるか」と出席議員による議論の盛り上がりを見た。しかし、出席議員は「地域の中小建設企業の受注とつながっているものの、実際は全然できていない」「国交省は事務所の担当者まで方針をちゃんと伝えているのか」「設計変更費

の適切な支払いを徹底すべきだ」と、目先の09年度補正予算が地元の中小建設企業にしっかりと行きわたるかが目下の関心事。唯一、骨太方針に触れた意見も「骨太の方針の議論が経済財政諮問会議で始まるというが、またかという感じだ」というものだった。08、09年度は、補正予算で公共投資の増加を実現したものの、骨太の方針09で公共投資削減の方針が再び盛り込まれれば、基本的な公共事業関係費は減少し続けることになる。

こうした中で、自民党の低調な議論に、「全治3年と言われ、08年度から公共投資増加の議論を続けたことで、もう大丈夫だろうと高をくくっているフシがある」と政府関係者からは不安の声も上がっている。

「08、09年度の補正予算を実現したのは、政治の力が大きい」（国交省幹部）のは事実。自民党日本経済再生戦略会議の町村信孝会長が3日の会議で「骨太の方針がどうなるか見極めて、皆さん（自民党議員）から意見を頂く場

を設けたい」とあいさつしての盛り上がり期待が集まりおり、今後の自民党での議論そつだ。